



【汚れとは何?】

”汚れ”について、普段から意識されている方は少ないと思いますが、汚れと言いましても多種多様でして、それらを良く知っておくと、お洗濯にも結構役立ちます。

今回は”汚れ”をテーマにしたいと思います。

《人体からの汚れ》

衣類の汚れの大半は、人から分泌もしくは排泄された汚れです。主に汗・皮脂・垢・血液などが上げられます。

汗

汗は、無色透明で臭いもありません。しかし、それが細菌により、アンモニア化合物などに变化して、黄ばみの原因になったり、色柄物を色あせ・変色させたり、繊維を痛めたりもします。

皮脂

皮脂は、皮膚の皮脂腺から分泌され、皮膚の表面をまるでスキンクリームのように保護する大切な物です。

しかし、衣類の頑固な汚れの原因の一つでもあります。

皮脂汚れを何日も放っておくと、汗と一緒に酸化して、黄ばみ汚れになります。この様な汚れは、洗剤などでは落ちず、漂白剤で化学的に分解しなければなりません。

垢

人の皮膚は、いつも生まれ変わっており、皮膚の角質は新陳代謝により剥がれて死んでいきます。

これとホコリなどが混ざり、そして皮脂が接着剤のように衣類にくっついて、黒ずんだ頑固な汚れとなります。

したがって、襟首や袖口などの黒ずんだ汚れは油汚れです。

油汚れを落とすには、食器洗い用の洗剤を、歯ブラシなどで直接ブラシ掛けし、それからお洗濯して下さい。

血

血液の厄介なところは、間違っただけで非常に取れにくくなることです。これは血液がタンパク質で出来ているためです。

基本的には、水で洗い流すこと、しかし、衣類には水洗い出来ない物も多く、それらは家庭では処理されないことをオススメします。

《食べ物の汚れ》

主成分としてタンパク質・脂分のもの

マヨネーズ・ソースしょう油・煮物汁・卵・バターなど
食器洗い洗剤に、少量のアルコールとアンモニア水を加えて、歯ブラシなどでたたき出す。

天然や人工の色素など

ジュース・コーヒー・ココア・果汁
つけてすぐなら流水で洗い流す。それが無理でも、出来るだけ早く中性洗剤でもみ洗いする。温水を使っても良い。

色素にタンニンを含むもの

コーラー・お茶
中性洗剤でもみ洗いし、1度濯ぎお酢又はレモン汁をつける。
2.3度繰り返して、最後に漂白する。

タンパク質・脂分に色素が混合したもの

カレー・トマトなどを使ったシチュー
洗い方は、タンニン系と同じ

《生活の汚れ》

生活用品による汚れと言っても、その範囲は可成り広くて、ここだけでは紹介しきれませんので、大きく3つに分けて説明いたします。

水溶性の汚れ

水溶性と言えども、すぐに洗い落とすコトが大切で、時間が経つと酸化したり化学変化を起こして落ちなくなります。

また、よく間違われるのですが、水性のペンなどは水溶性ではありません。あれはインクの溶剤が水溶性で、インク自体は水では落ちません。

油溶性の汚れ

ボールペンやマジックインキ、また多くの化粧品、機械油などこれらは水には溶けません。また食品の油と違い、もっとつよい油なので、洗剤でも溶けにくいです。

これらを落とすには、有機溶剤が必要となります。

固体の汚れ

固体と言っても、ホコリのように細かいものです。泥や砂・金属粉・煤煙・繊維のちりなど、これらは空气中を漂い繊維に付きます。ブラシで落ちますが、繊維の内部に入ると取れにくくなり、衣類の表面が黒ずみ、頑固な汚れになります。